

e- PIPETTS

巻頭言

仕事の流儀と恩師の言葉

臨床検査科支部長
8期生 河口 豊

臨床検査科では今年43期生が入学しました。私もずいぶん年を重ねてきたなあとしみじみ思うとともに、臨床検査技師として、また、職業人として、ちゃんと成長できたのか少し不安になることもあります。これまで多くの先生、諸先輩方にご指導を受けたお陰で今の自分があるわけですが、それらを少しでも後輩に伝えることができると真剣に考えなければならない年齢になってきました。そこで、これまでの様々な経験の中から、これは大切にしないといけないなと思っていること、すなわち私なりの仕事の流儀をいくつか上げてみました。

私は、現在微生物検査を担当していますが、日頃から『①技術・知識に関することは些細な事でもスタッフと情報を共有』するようにしています。例えば、珍しい菌が分離されたときはみんなでコロニーを供覧し、性状を確認しています。また、希少症例はみんなでディスカッションし、症例報告ができるか検討しています。

また、『②自分の担当部門（微生物）以外の臨床検査や治療についても勉強する』ことを勧めています。『③臨床医と話しができるようにする』ためには、検査全般とある程度の治療（薬）に関する知識が必要と思っているからです。私は、ICT（Infection Control Team）の活動をしていますが、本年6

月、ICTの中に抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team : AST）が立ち上がり、問題のある感染症症例をピックアップし、主治医に適正な抗菌薬使用を促すという活動を行っています。実際の診療に近い領域で、他職種の方の仕事も理解しがならの活動は大変ですが、非常にやりがいのある仕事だと思っています。

一方、日常の業務に関しては、スタッフには『④仕事はできるだけ早く終わらせる』ように言っています。できるだけ（業務）時間内でも教育や研究を行なうための時間をつくるためです。また、『⑤教育や研究に関わっている者の（業務を含めた）バックアップ』をするようにも言っています。全員で行っているという一体感が大切です。論文が投稿される際には、誇りをもって共著者として名前を記載してもらえばよいと思っています。

その他、異議がある方もおられると思いますが、『⑥できるだけ超過勤務はしない』ようにしています。どんなにハードな仕事でも時間内に終わることが（プロとして）前提であり、『⑦超過勤務の多さが「よく働くこと」または「忙しさ」のパロメータあるとかぎらない』と思っています。家庭の用事であろうが自己研鑽であろうが、時間外は自分の時間であると考えています。また、『⑧必要な公休は割りきってとることも大切』です。仕事も大切ですが家庭も大事です。良いバランスで気持ちよく仕事がしたいものです。そのためには、「お互い様」の精神で仕事のフォローできる環境をつくることが重要であり、『⑨「この人がいないと仕事がまわらない」ということはできるだけ排除すべき』と考えています。

さて、管理職になると、スタッフには少し耳の痛い話もしなければなりません。私は、常日頃から、上司から職務を与えられた際、『⑩まず、「できない」理由を考えない』ように言っています。「えー、何々だから無理です・・・」などと、できない理由から述べる人がいませんか。これが当たり前のようになると職場は「ゴネ得天国」になります。できるようにするためにはどうするかを前向きに考えることが何かと良い結果につながるものと信じています。

また、スタッフに対しては、『⑪自分にできることをすぐに求めない』ようにしています。個人の力量をみて成長を待つことも大事です。そして、『⑫良いことはしっかり褒める』けれど、『⑬指摘事項は見過ごさない』よう心がけています。成功体験は自信の元ですし、失敗は成長の元です。

いろいろと述べてきましたが、当然異論や批判もあるでしょう。諸先輩方においては「まだまだ青いな」と思われる方もいらっしゃるでしょう。また、ご教授いただければ幸いです。

稿を終えるにあたり、佐々木先生が昔おっしゃっていた言葉が思い出されました。確か、「川短卒 消しても消えぬこの文字は 書いて誇れる人となれ」だったでしょうか。佐々木先生はまだ及第点くれませんか？

附属病院から

附属病院・付属川崎病院 中央検査部 新入職員挨拶

今年、臨床検査技師国家試験に無事合格し、川崎学園の中央検査部に仲間入りした新人4人のご紹介をしたいと思います。

私は現在、川崎医科大学附属川崎病院の採血室に所属しています。

採血室の受付と採血業務をしながら、患者さんへの接遇や周囲への配慮の仕方など検査室の中とはまた違った経験をさせていただいています。患者さんへの痛みを伴う業務であるため、とても緊張しますが経験を積むことで上手になっていくので怖気つかずに積極的に臨んでいます。

今は採血をすることに精一杯ですが、検査項目や各検査における必要量などを覚えたり、採血しにくい患者さんでもきちんと採れるように先輩方の手技をみたりアドバイスを聞いて学んでいきたいと思っています。

川崎医科大学附属川崎病院 湊瀬 友花

私は、川崎医科大学附属病院の中央検査部で血液検査をしています。

現在は凝固検査を中心に検体受付などもしています。ただ検査結果を報告するだけでなく検査結果から患者さんの容体や、考えられる疾患を結び付けていけるように意識しています。

これから3年間ローテーションしていくからこそ、その経験を活かして様々な角度からデータを読み取り、判断していけるよう視野を広げていきたいです。

川崎医科大学附属病院 藤井 美優

川崎医科大学附属病院 中央検査部の藤本大地です。短大を卒業し、検査技師として働き始めて4か月がたちました。この4か月は毎日が新しい体験ばかりで楽しく新鮮でしたが、同時に実際業務をこなす難しさも体験しました。今はまだ日々の業務をこなすことで精一杯ですがはやく慣れ、素晴らしい先輩方に追い付けるように日々努力し、向上していこうと思っています。

川崎医科大学附属病院 藤本 大地

川崎医科大学附属病院に勤務し始めて4か月が経ちました。最初の2か月は検体検査を経験させていただき、現在は超音波検査室にいます。検体検査と生理検査で大きく違うところは実際に患者さんを前にして検査するところです。検査の際に患者さんやご家族の方と話す機会があり、病気の有無や検査に対して不安を持ち、検査結果をととても心配されていることを感じました。

今は患者さんが少しでも安心して検査できるよう意識して検査を行っています。

3年後に配属される部署が検体検査、生理検査のどちらであっても検査の裏には不安を持った患者さんの姿があるということを忘れることなく、自分の行う検査に責任を持って結果を報告していきたいです。

川崎医科大学附属病院 山室 良太

新天地

臨床検査科第9期生 所司 睦文

北九州の小倉から日豊本線で南下して行くと、海と山、または、山と山がどんどん列車に迫ってきます。どんどん山の中を突っ切っていくと、やがて開けた平野に出ます。いま、私は東に日向灘、残り3面は山々に囲まれた陸の孤島とよばれる宮崎県延岡市に住んでいます。ここは長閑な田舎風景が広がる静かなところです。



延岡市はいま巷で流行っているチキン南蛮発祥の地です。地元で有名なお店の前には行列が出来るほどです。お祭りも幾つかあります。4月には九州三大春祭りのひとつといわれる延岡大師祭、7月にはのべおか七夕まつり、1,000人を超える担ぎ手が勇壮さを競い合う出会い神輿、5,000人を超える市民が参加するばんば総踊り(私も踊ってきました)、延岡花火大会などが開催されます。お祭りではないのですが、10月にはのべおか天下一薪能、10月から12月上旬にかけては300年以上続く伝統的漁法の鮎やななどが催されます。いつもはそれほど人を見かけないのですが、お祭りやイベントになると多くの人々が集まってくる、そんな街が延岡市です。

さて、私、川崎医療短期大学を前度末に円満退職し、2015年4月に延岡市に新設された九州保健福祉大学生命医科学部生命医科学科に教授として招聘されました。

4年制大学は社会に有益な研究活動を行う機関です。そして、その研究成果を学生教育や社会貢献として還元するのです。昨年、文部科学省の有識者会議での、一部のトップ大学をのぞき、他の大学を職業訓練校化しようという発議からも伺われるように、個々の大学がそれぞれの生き残りをかけた闘い、言うなれば戦国時代に突入しているのを今まさに実感しています。つまり、個々の教員が行って

いる研究活動の実績が、大学の善し悪しを決める重要な指標となっているのです。この認識が最も重要で、専門学校や短期大学での実務教育と異なる点です。

難しい話はさておき、九州保健福祉大学では生命医科学 11 号棟という建物が新築されました。そこには、100 名ほどが同時に実習できる実習室が計 5 部屋ほどあります。その 1 室は 80 台余りの顕微鏡を常設した鏡検室です。とても雄大です。この他、臨床生理検査の実習室、分析化学・免疫学実習室、病理・微生物検査室、細胞診検査室などが設置されています。

私は九州保健福祉大学で臨床生理学的検査を主に学生に教育します。

心電計(フクダ電子 FCP-8800; 2 台、FCP-8221; 4 台)、超音波診断装置(日立アロカ ARIETTA70; 4 台)、脳波計(日本光電 EEG-1200; 2 台)、筋電図誘発電位検査装置(日本光電 NEB-2306; 2 台)のほか、電子スパイロメータ 5 台、オージオメータ 1 台、重心動揺計 1 台、血圧脈波計 1 台、磁気刺激装置 1 台、視覚聴覚刺激装置 1 台、一酸化炭素ガス分析装置 1 台、電気味覚計 1 台など数々の ME 機器を用意してもらいました。

開設から 5 ヶ月目に入りましたが、まずは第 1 期生 79 名をしっかりと育て上げるのが、私の当面の責務と思い頑張っています。



国家試験対策(当日支援)への参加

16期生 見手倉 久治

国家試験の前日、国家試験会場に向かう前のホームルームから参加させていただきました。通山薫主任教授と河口支部長からの激励の挨拶のあと、同窓会からの差し入れとして、入浴剤とチョコラボキットカット（同窓会特製パッケージ）を学生全員に渡しました。血行を良くしてゆっくり眠れて、糖분을補給して全力を出し切れるようにとの願いを込めています。さらに担任からは、短大近くの両子神社に合格祈願の参拝時にいただいた合格鉛筆とお礼も渡されました。2台のバスに分乗して試験会場である香川県に向けて出発して、今回の当日支援メンバーとして僕と松尾浩二さん（19期生）も担任の中原先生と副担任の鐵原先生とともにバスに便乗させていただきました。

1泊したホテルでは、到着後間もなくバイキング形式の夕食を全員で食べました。その後、学生は、自室内で勉強するなど様々に時間を過ごしていました。その間、色々な質問を受けたり、不安な学生の話し相手になったりしました。近くのコンビニ（徒歩5分）に行くのに街灯もなく暗い道だったので、念のために付き添って行ったりもしました。試験当日は、会場まで行き、弁当と受験票の配布などを4人で行いました。会場では他大学の学生もいるので、的確な指示が必要でした。学生は60名近く居るなかで担任と副担任の二人では、全員に指示を出すのが難しいと思いました。担任の中原先生と副担任の鐵原先生からも感謝の言葉を頂き、今回の2日間の支援をしてよかったと思いました。そして何より、バスに乗って一緒に試験会場に向かった全員が3月30日に各地で一斉に笑顔になれたことです。その一助になれて良かったと思いました。



川崎医療短期大学 臨床検査科 中原 貴子

■国家試験対策講義実施

国家試験まで残り1か月を切り、学生の緊張が高まる中、今年も同窓会国家試験対策講義が1月26日から2月17日にかけて開催されました。最後の追い込みとして、10名の先輩方（浅野さん、石松さん、岩崎さん、）が国家試験問題のポイントを90分間に濃縮して伝授してくださいました。

また、今年は臨床化学の補強として、ファルコ総合研究所から藤本 一満先生を講師としてお招きし、対策講義をお願いしました。

毎回対策講義が終わった後も熱心に質問をするなど、有意義な時間を過ごしており、全員合格に向けて3年生の気持ちが一つになっていくのが感じられました。

■就職支援講座が開催されました

平成27年2月28日（土）に就職支援講座（松丘会からの教育支援講座）が体育館102講義室にて開催されました。

はじめに、高津 昌吾先生より、「職場が求める人材～特に新入職員に求められること～」と題した講演を行っていただきました。社会人に必要な常識やマナーは、臨床実習においても大切であり、4月からの実習に向けて決意を新たにされたようです。

また、講演後は4名の同窓生と平成26年度卒業生6名とグループミーティングを行いました。病院・検査センター・健診センター・進学と異なった進路を選んだ卒業生と、医療の現場で活躍されている同窓生にそれぞれの立場で話をさせていただきました。

就職に向けて少しずつ考えはじめた時期でもあったため、この講座を通して、就職に対する意識付けができたのではないかと思います。



■臨床検査技師国家試験 2年連続 100%合格!!

平成 27 年 3 月 30 日 14 時・・・2 月 25 日に行われた臨床検査技師国家試験の合格発表がありました。厚生労働省のホームページには卒業生 57 名の受験番号が一つも欠けることなく、表示されていました（全国の合格率は 82.1%：新卒は 93.8%）昨年は 100%全員合格だったというプレッシャーの中、今年も無事に全員合格となり、担任としても感慨ひとしおです。来年も全員合格に向けて、教員一同力を尽くして参ります。同窓生の皆様、引き続きご支援・ご協力くださいますようお願いいたします。

